○ 11 月の人権に関する月間・週間・記念日「児童虐待防止推進月間」「女性に対する暴力をなくす運動（11/12 ～ 25）」「犯罪被害者週間（11/25 ～ 12/1」「鹿児島レッドリボン月間(11/16 ～ 12/15)」

十島村教育委員会だより　平成 29 年 10 月号

広がれ！トカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

10 月・・・口之島小・中学校 文化祭・運動会を参観して

十島村教育長　有村孝一

今年度は、日程の関係で口之島の文化祭・運動会に行きました。「Ｆとしま」が口之島港に着くと、タモトユリ会、ダイバーの皆さん、先生方の家族など 65 人が船から降りたということでした。もちろん、そのほとんどの人が文化祭・運動会のために来島した方々でした。港は大賑わいでした。

第 29 回口之島文化祭は、９：００から始まりました。スローガンは、「限界をこえろ！～自分を信じ　仲間とともに　つきすすめ～」でした。このスローガンは、次の日の大運動会まで含めた統一スローガンであり、込められた熱き想い 2 日間貫かれているかのようでした。

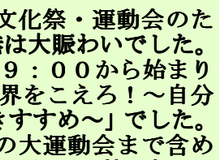
開会のあいさつと演技・鑑賞上の注意をした二人の 6 年生は、ともにたいへんはっきりとした声で、元気のいい挨拶をしてくれまして、文化祭は最初から、引き締まった雰囲気で始まりました。

舞台発表は 12 演目ありました。小中学生の発表は、たいへん工夫されたものでした。オープニングの「口之島ソーラン 2017」は、たいへん元気のある、迫力のあるものでした。拍手もたくさんもらっていました。理科で学習したことを発表した小学 5・6 年生は、見えない空気を煙を使って可視化して、見ている人たちをうならせていました。13 人全員で行った「劇：桃太郎口之島バージョン」は日頃の生活と密着して島内放送で「Ｆとしま」の到着時刻を知らせるなどする場面もあり、大いに盛り上がりました。

ただ 1 人の中学生の中村拓海くんは、一人で見事に生徒会長としての思いを発表してくれました。また、くちっこ園の皆さんは、2 年前に見た時より大変立派にでき、堂々とした発表が出来ていました。指導が行き届いているのが感じられました。

地域の方々については、女性部の皆さんが文化祭に花を添えていただきました。

「みんなが大きな声で分かりやすく、セリフもはっきりと発表をしていた。」「子どもたちの動きがとてもきびきびとして、見ていて気持ちが良かった。」「発表の準備や、そのあと片付けまで子供たちの手でしっかりと行われ、やらされているのではなく、自分たちで作り上げているという感を強く感じた。」「くちっこ園の子供たちは大変大きくなり、出てくるだけで可愛いという感じだ」というような感想を持ちました。



次の日は、朝から快晴で、絶好の運動会日和となりました。地域の方々の他に、島外からの参加者など、島の人口の半数以上の方々が参加して開催されました。

昨日の疲れも見せずに、子供たちは一生懸命に頑張りました。文化祭同様にたいへん工夫された競技もあり大笑いをした競技もありました。結果として、白組の連覇となりましたが 参加した全員が満足した運動会になりました。

夜に行われた懇親会も大いに盛り上がり、参加した 80 人余りの人々が満面の笑顔で、話しに歌にそして踊りにと、心ゆくまで楽しんでいました。

十島の小・中学校 学校新聞もすごい！

学校新聞コンクール（主催：南日本新聞）

○口之島小中学校一席
○宝島小中学校３席、小宝島小中佳作

十島ファミリー劇場 ありがとうございました！

「ファミリー劇場」は、本年度、天候に恵まれ計画通りの期日に開催することができました。

出演者や内容など、細かな打合せをお願いし、開催に向けては時間調整など多くの方々に御協力いただきました。

「子供の歌」

南日本新聞掲載
（平成29年9月14日）

はなびであそんだ

（諏訪之瀬島小1年　鎌倉　陽菜）

せんこうはなび
いっこひをつけてみると
なんとパチパチ
おとなるよ
そしてピカピカ
ひかってるよ
さいごにポタッと
おちました
せんこうはなび
きれいだな

シリーズ――新聞に投稿2（平成29年９/１４南日本新聞）

「　若い目　」　中之島中1年　中 島 大 志

自然の中で生きる

７月の水泳学習の最中、頭の上で「キーキー」という、いつも聞かない鳥の鳴き声を聞きました。空を見上げると、ミサゴが自分よりも大きいサギを爪にひっかけ、飛んでいるところでした。みんな泳ぐことも忘れて「すごい」とか「かわいそうだね」とか言いながら見ていました。

中之島は野鳥の種類が多く、研究のために島に来る人もたくさんいます。普段はきれいな鳥の声が当たり前のように聞こえてきます。

中之島にはスーパーやコンビニなど便利なお店はありません。ご飯を食べに行くレストランなどもありません。でも、僕は、島にいる方が好きです。

僕は、父に島の生活のよい点はどんなことだと思うか聞いてみました。すると、海を山もすぐ近くにあることだと言いました。僕の父は漁師です。父が取ってくれる魚は取れたてなので、どれもおいしいです。これも自然のおかげです。

中之島は自然が豊かで、人の心も安らぎます。わき水が豊かでタケノコ、ツワ、木イチゴなどを僕たちに恵んでくれる島の自然。野鳥だけで無く、野生のヤギもいます。とても暮らしやすいです。

シリーズ――新聞に投稿3（平成29年10/8南日本新聞）

「　若い目　」　諏訪之瀬島小2年　濱田　千明

がんばった体育大会

い自にゆ　がとイるん玉心　やら楽つるしんまいすわのせじま小では、7月から体
プ分まうけ心きンとが入がいり、しくこたしすくがはじまりました。
レはけしっにれトワっれドよまみいなと。ゅ。大会のれんしゅうがはじまりす。ソーランぶしやリレーのれしゅうは思ったよりかんたんでした。9月になると、ほかにもやることがふえてきて、だんだんきくなってきました。それでも、きしい体いく大会をむかえたいかみんなといっしょうけんめいりました。

いよいよ本ばんになりました。がドキドキしました。リレーや入れが終わり「つぎは、おうえんがっせんです」とほうそうがなとワクワクしました。おどるポントにつきました。「手をのばすきれいだよ」。先生のアドバイス心になりひびきました。けっかはっぴょうになりました。うしょうは赤ぐみでした。赤組まけて、心はがっかりだけど、分は、がんばったという、楽しプレゼントをもらいました。

子供の歌

シリーズ――新聞に投稿4
（平成29年10／10 南日本新聞）

運動会の思い出

あっというまの運動会
だけどたくさんの思い出できた
フォークダンスに親子リレー
競技に対して、いろんな思い出
あっというまの運動会
なぜなら全ての競技を
全力で行ったからだ
たくさんの競技
たくさんの思い出
たくさんの力
みんなのおかげでできたこと

（諏訪之瀬島小５年　はまさき　さな）

11月「郷土に学び・育む青少年運動」強調月間(鹿児島県)「子供・若者育成支援強調月間」(内閣府)

地域で青少年を育てる気風を盛り上げましょう！

地域が育む「鹿児島の教育」県民週間！(11/1 ～ 11/7)

※ 各学校で、みなさんをお待ちしていますよ。

平成２９年度前期　小学校版
「体力アップ・チャレンジかごしま」
日置・鹿児島郡区ランキング（H 29.9.8 現在）

２年生・・・「レッツ短縄跳び」３位：悪石島
　　４位:諏訪之瀬島
３年生・・・「長縄エイトマン」５位：小宝島
４年生・・・「レッツ短縄跳び」１位：悪石島
　「馬跳びピョンピョン」２位：悪石島
５年生・・・「レッツ短縄跳び」１位：悪石島
　「２人でさっさっ」１位：平島
　「10 人でチャレンジ」１位：中之島
６年生・・・「レッツ短縄跳び」１位：悪石島

どの学校も体力作りに励んでいます。記録等は鹿児島教育事務所のＨＰに掲載されていますので御活用ください。

悪石島小・中学校からのメッセージ

悪石島中学校　教諭　岩田　尚樹

島の漁師さんと沖合に漁に出かけた。港を出港して、ポイントに向かい、糸を垂らすが、なかなか釣れない。何箇所かポイントを移動した。ターゲットを絞って魚を釣るのは難しいと海を眺めていた時、漁師さんが、「自分で釣り場を探し、自分で魚を釣り上げて、初めて一人前」と教えてくれた。次々と魚を釣り上げる漁師さんの姿に、プロの姿を見て感動した。漁が終わり、授業の準備のため学校に向かい、黒板の前に立った時、漁師さんが教えてくれた言葉を思い出した。「自分は一人前のプロの教師だろうか」「今、自分が行っている授業は、目の前の生徒の実態にあった授業なのだろうか」と反省した。悪石島に来て１年半が過ぎたが、これまでのやり方（指導）では、うまくいかないこともある。極小規模の学校だから、子ども一人一人と向かい合うことができる。その中で、その子にあった指導の型を見つけ、生徒が「わかった」と言える授業をし、教師として１人前になりたい。悪石島には、「○○のプロ」がたくさんいるが、自分にはない『引き出し』を持っていらっしゃる先生方に学べるこの環境で、教師生活が送れることは、自分にとって大きな財産だと思う。大切にし、次へとつなげていけるよう努めたい。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ」

小・中併設校の強みは、小学校と中学校の教師が同じ校舎でスクラムを組み、子どもの教育ができることだと思います。それぞれの校種の良さを互いに取り入れ、ＴＶ会議システムを活用し、チーム○○小・中学校ではなく、チーム十島としてスクラムを組んでいけたら考えています。